

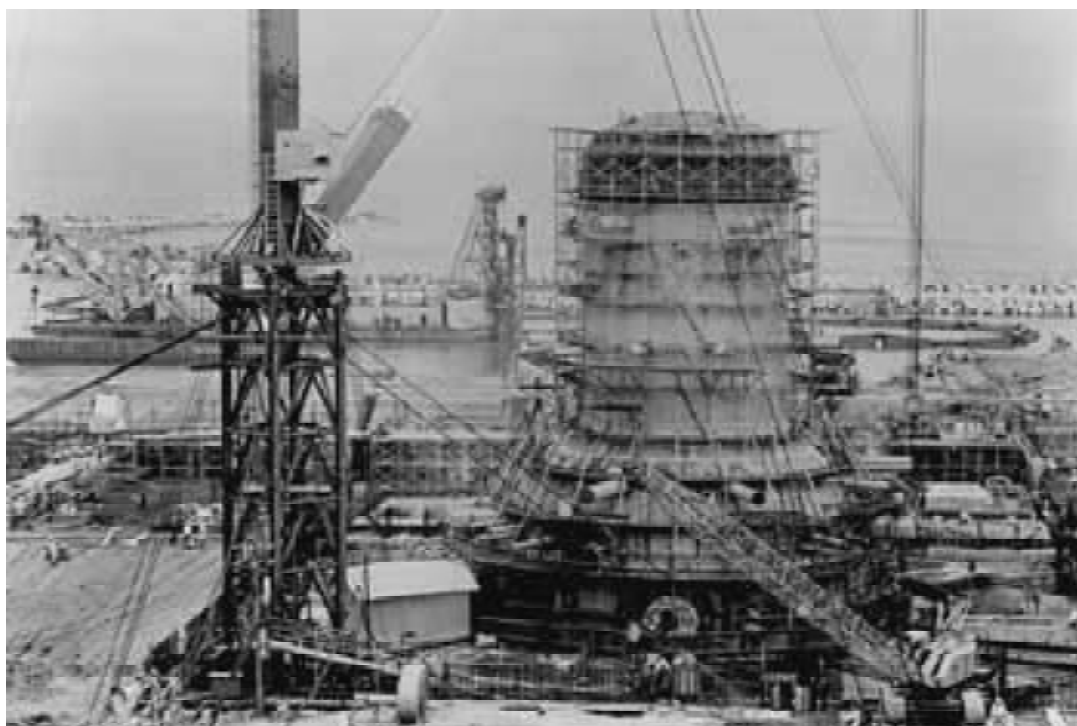
リカ独特の巨大なトルネ - ド（竜巻）の被害、「木のミサイル」と呼ばれる大木が空を飛ぶ怖ろしさ、また武装したテロの襲撃等の対策としては、非常電源や重要付帯設備は地下施設にすれば安全だとする、アメリカ側の仕様で設計した。

原発建設を担当した旧通産省幹部が当時を振り返っての証言によると「アメリカ仕様通りに造らないと安全は保証しないと言われ、反論出来ないままに造らざるを得なかった」と証言しています。確かにアメリカ人の気質として独善的なモノがありますが、その後、建設以来 40 年近くも経つのですからその間 東電側で非常用電源施設だけでも高台に移すとか、何らかの対策があったはずで

です。ですから、40 年も経た現在、アメリカ・GE 側に設計に不備があった、とするのは単に責任回避の弁解にすぎません。

安全神話だけを喧伝し、安全対策を怠ってきた監督官庁、電力会社の怠慢こそ責めるべきです。

Q：日本側には原子炉、原子力発電所建設の技術なし、全て GE から学び、丸投げ状態でスタートした、日本側には不安はなかったのでしょうか？



（福島第一原発工事、原子炉据え付け工事）

A：東京電力で福島原発建設の責任者で原子力担当本部長池亀亮氏、後に副社長になり、引退後新潟市に住み、昨年 10 月 14 日 83 歳で死去しました。

この方が、「初号機の誕生」（縦の木会・東電原子力会編「福島第一原子力発電所 1 号機運転開始 30 周年記念文集」（2001 年所収）の中で、福島第一原発 1 号機のトラブルについて